

# ハマ街ビト

横浜には、独自のサービスや技術の強みを生かした魅力的な企業、団体が数多く存在しています。LTR 独自の視点で他社の参考になる先駆的な取り組みや、新たな挑戦をする企業とヒトをピックアップ。今回は、健康経営（※）や SDGs・環境への取り組みなどをテーマにしたインタビュー記事をお届けします。

※健康経営：企業が従業員の健康管理を経営課題として捉え、積極的に取り組むこと。

## 株式会社コウセイ 専務取締役 國光 一平さん

『今ある給排水管をできる限り活かす』といった「更生工事」のプロフェッショナルとして、1996年に創業した株式会社コウセイ。廃材を最小限に抑え、新管同様に生まれ変わらせる「更生工事」は、環境に配慮した工法として SDGs の取り組みにも直結しています。今回は専務取締役の國光 一平（くにみつ・いっぺい）さんに、会社の強みや健康経営、SDGs・環境への取り組みなどについてお聞きしました。



株式会社コウセイ 専務取締役 國光 一平さん

### 「更生工事」「更新工事」の二つを手掛けることが自社の強みに

—まずは、事業についてお聞きします。給水管・排水管の工事には、「更生工事」と「更新工事」があるんですね。

【國光】はい。「更生工事」は今ある給排水管を残しながら、サビや汚れを除去し、最新の加工技術で新管同様の給水管へと生まれ変わらせる工法です。大規模な工事による騒音や振動がないことも特徴ですね。

—現在使っているものを可能な限り活かす……古くなった配管を廃棄しないなどは、環境に配慮していると感じます。

【國光】そうなんです。低コストや短納期といったメリットのほかに、環境負荷が少ないという点が大きな利点だと思います。ただし事前調査を行った際、劣化などの状況によって新しい配管に取り替える「更新工事」をご提案することもあるんです。目安として、築 25 年前後の集合住宅の場合は「更新工事」をお勧めしますね。県内で「更生工事」「更新工事」の二つができる企業は少ないので、そこは強みだと思っています。

（更生工事は、運搬やゴミの排出などで発生する CO<sub>2</sub>の削減に貢献できる。例：50 戸のマンションでの給水給湯工事を想定した場合、更生工事と更新工事を比較すると、CO<sub>2</sub>削減の差は 2146 kg。これは 1 本の杉の木が 1 年で吸収する CO<sub>2</sub>の 244 本分にあたる＜杉の木 1 本あたり約 8.8 kgの CO<sub>2</sub>を吸収していることになる／林野庁ホームページを参照＞）

—まずは診断してもらい、その上で最適な提案をしていただ

ける。お客さまにとっても、的確なアドバイスや選択肢があることは安心ですね。

【國光】他に弊社の特徴を挙げるとすれば、改修工事を請け負えるということですね。改修工事はお客さまが住んでいるお宅にお邪魔するため、一定の教育を受けた者しか対応できません。お客さまの信頼を得るため、好感度の高い見た目はもちろん、コミュニケーション能力も重要となるので、人材教育には力を入れています。そういった「人間力」を評価いただいたことが、現在までの実績につながっているのかもしれない。

### 父の教えと教員生活での学びを活かした健康経営

—「教育」といえば、國光さんはかつて教員をされていたとか？

【國光】はい。6 年ほど小学校で教員をしていました。そこで得た経験は、今も大変役立っています。

—具体的に教えていただけますか？

【國光】細かな指導というよりも、「どう人を見て、どう接するか？」というところですね。子どもたちは日々成長し、気持ちや行動にも変化が生まれます。それを察知する観察力や対応力などですね。

—なるほど。確かに、それらは大人の社会においても重要な「力」ですね。

【國光】会社でいえば、毎朝元気に挨拶をしていた従業員が、ある日突然明らかに声が小さくなる、仕事に対して消極的になっているなどの変化があった。そんなとき「どうアプローチするか？」は、本から学べるのではなく、これまでの経験が大いに活きると思うんです。教員生活の 6 年を振り返ると、技術的な経験を積むよりも、非常に大きなことだったと感じています。

その後、國光さんはお父さまが社長をされている株式会社コウセイに入社。現在は、専務取締役という立場で経営に関わることをすべて担うほか、人事や労務、受注する案件の精査なども行っています。